

入試特集

秋のオープンキャンパス 高校生、父母ら2187人参加



▲メイン会場の9号館アトリウム



▲在學生による相談会



▲心理実験室を見学

「秋のオープンキャンパス」が鳳祭開催中の11月1、2の両日、生田キャンパスで催され、2187人が参加した。教職員と在學生による個別相談、模擬授業（飯田周作ネットワーク情報学部助教授「ゲームを作るーおもしろいゲームはどうやって生まれるかー」廣中直行文学部教授の「記憶の謎…私は本当に“私”なのか？」）、キャンパス見学などが行われ、メイン会場の9号館アトリウムをはじめ各会場は、資料を手にする高校生、父母らでにぎわった。

「個別相談」を担当した在學生の感想

■小池俊明くん（ネットワーク情報3）

「自分の受験期と比べ、明確なビジョンをもっている高校生が多いと監事しました」

■早川教子さん（文4・英ブリストル大学へ長期留学）

「留学意欲のある高校生からの質問を受けましたが、帰国してからの就職活動や単位の互換制度などについては、自分の経験をもとに答えました」

■浅尾芳史くん（経済3・三曲研究会代表）

「大学とはどんなところ？という素朴な質問には、サークル活動の体験も含めて話をしました。受験を間近に控えていることもあってか、皆さん大変熱心な様子でした」

入試方法など熱心に質問 ー 二部進学相談会 ー



二部（夜間部）の自己推薦、有職者、社会人入試を志願する人を対象とした進学相談会が10月15日から3日間、神田キャンパスで開かれた。多くの社会人や高校生が相談に訪れ、入試方法や試験対策などについて熱心に質問していた＝写真。

【ニュース専修11月号3面】

学部発信—文学部— 教育のハード、ソフトを充実



▲現代マスコミの現状と問題点を学ぶ「マスコミ・ジャーナリズム講座」

カリキュラム、学科再編など将来構想委員会で改革検討

日本の社会構造の変化が非常に激しくなっています。そのような中で18歳人口は2007年には129万人と130万人を切り、2010年には120万人になると予想されています。本学文学部の受験者数も減少しています。このような状態で、文学部が受験生からどのような評価をうけるのでしょうか。

ことばをかえれば、受験生にとっていかに魅力ある文学部になるかということが重要な問題になるということです。文学部では将来構想委員会を設置して、教員組織、カリキュラム、学科専攻の再編など、さまざまな問題を検討する予定です。

学生諸君に学習のための強い動機付けを与えて、主体的に学習する意欲を継続できる環境を作ることが要求されているでしょう。そのために、学部規模の見直しや学部教育の構成の見直しなどを視野に入れることも考えるべきでしょう。

◆有効なセメスター制

学科編成が現在のままでいいのか、あるいはもっと教育効果があがる学科編成にすべきであるのか。カリキュラムはいまのままでいいのか。スキル科目など授業は週に複数回行い教育効果をあげる。そのような場合には現在のようカリキュラム編成ではできないので、セメスター制導入の検討も必要でしょう。留学などの国際交流をしやすくするためにもセメスター制は有効です。

◆問題解決能力を養成

学科専攻についても現在のままでいいのか。あるいは、学生諸君の希望する魅力ある学科をあらたにつくるべきなのか。などいろいろな問題を抱え、これから基本的な改革を行わなければならない状態です。いずれにしろ、文学部は、現代社会で活躍出来る人材の養成を忘れてはいけなとと考えています。もちろん、その活躍の意味は単に資格がとれるとか、よい就職先が見つかるかという直接的な効果だけではなく、社会的な問題の本質の意味を見抜き、社会人として何を行うべきかを考える力を養うという役割を担っていることはいまでもありません。問題解決能力の養成、広い視野にたったリーダーシップのとれる人材の養成、また、英語を世界の共通語と位置づけて、英語の話す能力、聞く能力、書く能力、読む能力を集中的に教育し、グローバルな視点に立って、社会に役に立つ人材を養う必要があるでしょう。このような教育目標を達成するためには、教育のハード、ソフトの両面を充実し、教員、職員ともに文学部の教育目標に対する意識を高める必要があります。(文学部将来構想委員会委員長・永瀬治郎)

【ニュース専修11月号3面】

育友会学内施設見学会



▲山梨支部



▲茨城(水戸)支部



▲岩手支部

11月1日、育友会の学内施設見学会が生田キャンパスで行われ、山梨、茨城(水戸)、岩手の各支部会員が訪れた。一行は鳳祭に参加したり、図書館、情報科学センター、総合体育館などを見学し、学園風景に満足して帰途についた。

育友会支部懇談会結果「就職」に高い関心 留学、法科大学院にも質問

育友会(久岡清太会長)は10月4日、生田キャンパスで幹事会を開き、今年度の支部懇談会、就職懇談会の開催結果を報告、今後の事業展開について検討を行った。

今年の懇談会は全国68支部で、2246人の父母が出席して行われた(出席率は12.8%)。

出席者からは「単位取得と進級」「留学」「資格取得」「法科大学院について」など、学業への質問が多岐にわたった。

「就職情報」への関心が特に高く、熱心な質疑が展開された。就職懇談会開催地区からは「有意義だった」との声が多数寄せられた。今年是在学生の出席も増え、就職活動への動機づけの機会にもなっている。

これらを踏まえて「要望、意見を分析、検討し次の施策に反映させる。また育友会への関心を高めていただくため、情宣活動を一層充実させる」ことを申し合わせた。

【ニュース専修11月号3面】